六篠会報

No.15

発行／神戸市灘区六甲台町1　神戸大学農学部内　六篠会（りくそうかい）（神戸大学農学部同窓会）
連絡用FAX：078-881-2752　E-mail：rikusou@ans.kobe-u.ac.jp

神戸市・垂水にオープン、賑わう「マリンピア神戸」

CONTENTS

「国立大学の独立行政法人化と同窓会の役割」新家　龍 ……2
「農学部の実情と将来」相薗 泰生 ……2
同窓生は今　①アフリカ初体験　高野　俊一郎 ……3
②2000年ミレニアム同窓会　西尾　司 ……3
③脚光を浴びる「マリンピア神戸」　中村　直彦 ……4
支部会だより　①「KOBE六篠会」藤本有里 ……4
②県六篠会　松本　幹夫 ……5
③関東支部　和泉　孔庸 ……5
④延喜会　久下　平 ……5
六篠会からのお知らせ　①支部結成･活動を支援　中村　直彦 ……5
②学友会だより　西川　欣一 ……6
③神大クラブのご案内　中村　直彦 ……6
④総会のご案内 ……6
⑤開学百周年記念事業に想う　新野幸次郎 ……7
庶務報告 ……6
六篠会や大学への要望 ……7
11年度決算報告 ……7
12年度予算 ……7
同窓会名簿住所等変更者 ……8
13年度六篠会名簿発刊予定 ……8
編集後記 ……8

国立大学の独立行政法人化と同窓会の役割

六篠会会長　新家　龍

1. はじめに

六篠会会員の皆様には益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、マスコミ等に登場する皆様の第一線での活躍振りも胸踊る思いで拝見しております。

さて、平成11年は、神戸大学農学部並びに六篠会にとって、創立50周年という大きな節目の年でありました。ご存知のように、農学部・六篠会による創立50周年記念事業が盛大に実施されましたが、これ偏に実行委員会を中心とする会員各位の絶大なご協力とご尽力の賜物と思っております。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

それから早くも1年半余りが経過しましたが、その間予期せぬ自然現象や政治・経済等の諸問題が起こり、慌しい月日であったような印象が残っております。六篠会会員の中にも、それらに直接あるいは間接的に関与された方々があったものと拝察している次第です。これからも一層のご活躍を期待したいと思います。

2. 六篠会幹事会並びに代議員総会について

平成12年度の代議員総会に向けて、5月16日神戸大学クラブ（KUC）において幹事会が開かれ議案の検討が行われました。5月27日には神戸市産業振興センター交流サロンで代議員総会が開催され、平成11年度事業並びに会計報告がそれぞれ担当幹事から行われて了承されました。続いて平成12年度の事業計画並びに予算案が提案され、いずれも了承されました。詳細は本会報の関係記事をご参照下さい。なお、来年度は六篠会総会を開催する年にあたっておりますので、皆様多数のご出席をお願い申し上げます。

3. 六篠会支部活動について

県六篠会、Kobe六篠会、延喜会並びに六篠会関東支部の活動は、各支部からの本会報への寄稿からも分かる通り、それぞれ活発に行われております。平成12年度から、各支部の要求に従って10万円を限度として、六篠会本部から支部活動援助を行っております。より一層の活動を期待しております。

さらに、近い将来九州支部の設立が期待されますと共に、既に各地域・グループ等を通じて活動している会員のあることを耳にしております。どうかこの際是非支部活動として発展させていただきますようお願い致します。

4. 国立大学の独立行政法人化と同窓会の役割

私達が母校の創立50周年を記念していた時恰も、政府の行政改革の一環として国立大学の独立行政法人化が叫ばれるようになりました。新制度の大学が発足してから50年が経過し、その組織と運営を見直そうとする動きであります。しかも、それは平成13年度から導入されようとしております。

一般的には、日常的な国の規制が緩和されることにより、一方では、国立大学の自主性、自立性が大幅に拡大され、教育・研究の柔軟性が期待されております。しかし、他方では、いわゆる競争原理が導入されることにより、大学の淘汰が進むことが懸念されます。また、教育・研究の内容と管理・運営に歪みが生ずるのではないかとも懸念されています。

母校の益々の発展を期待している六篠会としては、神戸大学農学部がこれを危機としてとらえるのではなく、むしろ更なる発展の大きなチャンスとして対応していただきたいと思います。これまで神戸大学の農学部として将来あるべき姿について真剣に討議されてきたこととは思いますが、現在志向されている大学院大学によりふさわしい神戸大学農学部の姿を求めて、一層の努力を重ねていただきたいと思います。

神戸大学学友会（新野幸次郎会長）では、国立大学の独立行政法人化が実施されることについて、その話題と議論がよくでて参ります。何時も結論として、同窓会が母校にたいする支援を一層強化すべきであるとの認識で一致しております。米国の有名大学では、その発展の歴史に大学OB並びに卒業生の貢献が極めて大きいことを謳っております。これには我が国の税制と米国のそれが異なることによるとよく言われますが、最も重要なことは「母校を愛する心」が如何に強いかによるのではないでしょうか？「母校が良くなれば優秀な学生が増加し、その卒業生が社会で活躍して母校にさらに貢献する」といういわゆる「好循環の歴史」が繰り返されていると思うのです。

5. おわりに

神戸大学農学部は昨年50周年を迎えましたが、神戸大学全体としては間もなく創立100周年を迎えようとしています。大学当局並びに学友会では、既に、それを記念すべき諸行事の計画が始まり、その一部が実施に移されているものもあります。従って、六篠会でもそれにふさわしい行事を実施することになると思いますので、次回には皆様にお知らせしてお願い致します。

どうか六篠会の皆様には、国立大学の現状とその改革が進められていることに心をいたし、わが母校の発展のために一層のご理解とご協力をお願い申し上げたいと思います。おわりに、皆様のご健勝とご活躍を重ねてお祈りしてご挨拶と致します。

「農学部の実情と将来」

学部長　相薗　泰生

今年4月に学部長に就任しましたが、学部も大学と共に、必然的に発展的変革を成し遂げなければならない大切な時期を迎えていて、責務の重さを身をもって感じています。

私なりに学部の実情と将来の展望をお伝えすることで挨拶に替えさせて頂きます。

大学はどのような時代であっても、自主、自律の精神で教育研究を実施する場であり、教官は、学生に良き教育と研究を提供する義務を負わされていると思います。

この命題があり、平成五年、農学の基盤として、食料、環境、生物科学の三本柱を立て、関連課題の克服を目標とした教育研究の実践を目指して学部の組織改革が行われたことはご存じの通りです。教養部が同じ時期に廃止されたこともあり、四年一貫教育もスタートしました。一つの理想に向かって大変な時間と労力を費やし、組織、カリキュラムは改善されたのですが、諸般の事情から、目標に近い成果が達成されているとは言い難いと思っています。しかし、組織改革の流れは止まることなく、平成六年には大学院農学研究科（修士課程）が自然科学研究科博士前期課程として統合され、次いで、平成九年から三年間にわたり自然科学研究科博士後期課程の改革が行われました。そのなかで、自然科学研究科専任の教授・助教授は五十六名に拡大充実されました。このうち十四名の教官には、兼担教官として農学部の研究教育をサポートして頂いています。

この数年間、神戸大学の理系である理学部、農学部、工学部並びに自然科学研究科は、我田引水の範囲を越える発展を遂げ、全国的に他大学から注目の的となっていることは大変慶ばしい限りです。

最近、新聞に報道されたこともあり、ご存じの方も多いかと思いますが、神戸大学では、教育研究領域を四大学術系列（自然科学系、生命科学系、人文・人間科学系、社会科学系）に再編する将来構想が出されています。この構想は、今後、神戸大学が高度な研究教育を目指す大学として発展を期すことを一つの基本理念としていて、学部の教官は、近い将来大学院専任教官へそのステータスを変えることになりそうです。実現した暁には、農学部は学部学生を教育する場として存続すると考えられますので、教官は兼担教官として学部の教育に携わることになります。何時の時代もそうですが、教官は秀でた研究者であり、優れた教育者であることを要求されていますが、今後、個性豊かな農学部として存続することを目差すからには、教官に対するこの種の期待が一層高まるのは当然のことだと思われます。

全国の99国立大学は、時期は未定ですが、全て独立行政法人へ移行することが文部省で決定されています。この法人化を見据えたうえで、研究教育大学として展開を図る神戸大学のなかで、農学部は生命科学の分野で食料、環境に関連した諸問題にチャレンジする学術研究と教育を介して、社会へ貢献する道を進むことは当を得た選択と言えます。

農学のキーワードでもある食料、環境に深く関わる遺伝子関連の研究教育は、今後、益々その重要性を増すことが考えられますので、遺伝子実験センターに新しく部門を設置することで農学部の活動を進展させることを予定しています。

いずれにしましても、研究教育の主役である教官は、法人化を始めとする急激な環境の変化に憂いなく対処するための特効薬が見当たらない限り、日々の研鑽を怠ることなく力を蓄積しておくことが最善の方策と言えそうです。

近々、表面化する顕著な変化の一つとして、学内外の組織による大学及び学部の研究教育と運営に対する評価があります。この評価の結果が、大学、学部への予算配分に反映される事実を考慮しますと、全くおろそかに出来ず、如何にして学部の評価を高めるかに腐心せざるを得ない局面にあります。これまでに、学部でも、自己点検評価や有識者による外部評価を行い、学部の発展に資する方針を思索していますが、研究面では、教官個人の学術的業績（学術研究報告、外部研究費の獲得、学会活動など）に依存した従来型から脱皮し、グループによるプロジェクト研究、学会やシンポジウムの開催など、外部評価に値する組織的な新しい企画・実践を展開する必要があることを痛感しています。

また昨今の動向として、大学、学部の社会貢献が強く要請され、産学連携共同研究事業推進の強化策が打ち出されています。このことは、大学教官の業務が、教育、基礎研究、応用研究、産学共同研究と多様化していることを意味しています。この変貌に対応するため、今後、教官個人が能力と個性を生かせる業務を選択する時期が到来する予感がいたします。

他方、教育における成果は、一朝一夕に挙げ得るものでないだけに難しい側面があります。しかし、今後もさほど変わることはなく、卒業生が社会人として農学関連分野で高い評価を受ける活躍をすることにあると思います。社会でどのような問題にも対応出来るように、特に科学的基礎学力をたっぷり吸収した学生を社会へ送り出すことが、良い結果につながると信じています。

思いつくまま多くのことに触れましたが、いつまでも、学生が誇りと新進の気鋭を持って学習に勤しめる農学部であり、また、卒業生にとっても誇りと愛着を感じる農学部であってほしいと心から願っています。

最後になりましたが、同窓会の益々の発展と会員皆様のご健勝を祈念いたします。

同窓生は今

アフリカ初体験

自然科学研究科昆虫科学研究室
高野　俊一郎

私は昨年の六月から十一月までの半年間ケニヤはナイロビにあるICIPE（International Centre of Insect Physiology and Ecology）でマダニに寄生する蜂についての研究を行いました。この蜂は体長約1㎜の非常に小さな蜂で、マダニの体内で成長する内部寄生蜂です。私はこの蜂の寄主認識機構などについて研究しました。実験もそうですが、それ以上に研究所外での生活で得る物が多かった半年間でした。今回は主に研究の話以外で印象深かったことについて書きたいと思います（読まれる方もおそらくそっちの方を期待されている事でしょうし）。

ナイロビはアフリカであってアフリカでないと言われることも多い大都会です。しかし、アフリカ大陸初体験の私には十分刺激的でした。何の前触れもなく突如起こる断水、停電。そして、隙あらば車泥棒が登場し、ハイエースには三十人からが乗り込み、私のパソコンは爆発し、インキュベーターは煙を噴きました。しかし、今思えばすべてが良い思い出になったようです（たまに悪夢を見るので、心の深いところでは良い思い出と認識されていない可能性もありますが）。もちろん、家が広く、基本的な物価が安く、夜遊び充実とすばらしい事も数え切れないほどありました。

キリマンジャロ頂上アタック後下山途中

ナイロビ以外にも色々なところに行きました。そのなかでも特に印象深いのは、隣国タンザニアから入山するキリマンジャロ登山でした。キリマンジャロは一般的なルートを通る限り難易度は低く、高山病にさえかからなければさほど困難な山ではありません。私の場合それに加えて一緒に登った先輩がスワヒリ語を話せ、面倒くさい交渉ごとなどを引き受けてくれたため精神的に楽に登ることができました。しかし、頂上アタックはなかなかに感動的でした。キリマンジャロ頂上アタックは入山後三日目の深夜十二時に始まります。そして、暗闇のなか六時間近く崩れ落ちそうな斜面を蹴り続けると、突然視界が開け氷河を目の当たりにします。それは、これのために来たのだという確かな感触を得られた希有な瞬間でした。アフリカではいくつもの輝く時間を手に入れましたが、その中でも際だって煌めいた時間でした。その後頂上まではやや平坦な道が続き、氷河を横に見ながらの楽しい道のりでした。

サバンナに沈む太陽

輝いた時間と言えば、その先輩達と一緒に行ったマガディー湖旅行でもそういう時間がありました。まず、その湖のあたりは道が悪くてタイヤがパンクしました。しかも、二本。そしてスペアタイヤは一本しかなく、しかも観光地ではなかったため誰も通らずに一人が助けを呼びに行くことにしました。それが三時過ぎのことでした。日も暮れかけてきた六時すぎになってもその人は帰ってこず、車に残っていた私ともう一人は野宿を覚悟し、薪などを集めました。（ちなみにその後現地人に「シンバ　イコ　ハパ？（ライオン　いる　ここ？）」と質問したところ「いる。」とのことでした）。六時半にようやく助けを呼びに行った人が援軍をつれて帰ってきました。私たちがいたのは坂の中腹だったのですが、その坂の上からマサイの人たちをひきつれて帰ってくる彼に夕日が当たり、それはまるで映画の一シーンのようでした。そして、近くの町に向かいました。町に着いた後は泊まる場所探しですが、どうしても見つかりませんでした。交番にも行き牢屋に泊めてもらおうとしたのですが、先客がいたため無理でした。そこで、交番のまえで車を止めて寝ることにしました。暖かかったので私ともう一人は、道路に寝ました。アフリカの大地に寝転がり、星を眺めながら眠りに落ちるまでの時間は実に輝いたものでした。大量に飲んだビールとワインが輝かせたのだという説もありますが。

しかし、輝いた時間のあと、牛の群が歩いてきて私は起こされてしまいました。そして、そのなかの一頭がこけました。私は牛に蹴られたり、下敷きになったり、囓られたらいやなので車に逃げ込み眠りました。ちなみに先輩は実によく眠っており、起こすのは悪いから当然放っておきました。翌朝そのことを伝えたら、怒られました。しかし、気持ちよく寝ているところを叩き起こしても、やはり怒られたはずなので同じなのです。

研究所以外での話を続けましたが、研究所内でも様々な体験をしました。現地の人と実験をしていて一番痛感したのは意思の伝達の難しさです。日本だと言わなくても分かることでも、一々きっちり伝えなくてはとんでもない誤解をされてしまいます。それも、口頭ではなく文章に残して伝えなくてはならない事も多くありました。私の英語力不足、そしてゼロに等しいスワヒリ語力も災いし、最後まで円滑にコミュニケーションがとれたとは言えない状態でしたが、意志の伝達について学んだことは少なくありませんでした。とにかく、生活すべてにおいて学ぶことの多い半年間でした。まだまだ書くべきことはたくさんあるのですが、紙面の都合上このあたりで筆を置きたいと思います。最後になりましたが、今回のケニヤ滞在を費用の面で援助していただいた六篠会に深く感謝いたします。

2000年ミレニアム同窓会

兵庫農科大学柔道部
西尾　司（兵十六回）

20世紀最後のシドニーオリンピックでは、田村亮子・野村の男女金メダルに始まり、マラソンの高橋尚子、神戸出身の無差別級銀メダルの篠原まで期待と興奮、涙と感動をあたえてくれたが、われらが青春時代の「兵庫農科大学柔道部」もまた、汗と匂いの感動の日々であった。

兵庫農科大学県立から国立に移管となり現在の神戸大学、六甲台学舎に移り住みはじめたのが今から33年前の昭和42年9月である。昭和44年3月には最後の兵庫農大生が卒業するとともに兵庫農科大学柔道部の活動にも幕がおろされた。

その後、日本各地にあるいは世界に羽ばたき、高度経済成長期の日本を支え、バブル経済を経て、また、あの未曾有の『阪神淡路大震災』の修羅場をくぐり抜け、今年の4月、昭和40年卒の宇仁・杉本、41卒の農林水産省神戸検疫所長の細川、42卒の大野、43卒の西尾、44卒の小原らが集まった。話は、一気に盛り上がり、”6月、篠山にて同窓会の開催“連絡のつく限りメンバーを集めようとなった。北海道から九州、アメリカ、タイ…。

平成12年6月17日15時、旧兵庫農大正門前、〔我らが青春ここにあり〕と刻まれた碑石の前に懐かしい面々が揃い始めた。稲作には恵みの雨がぽつりぽつり。ふと見ると篠山市にご在住で六篠会会長の新家龍先生が、ほうめいの美酒を携えお見えになった。直接、授業を聞き、講座が同じ者もおり、いっそうの懐かしさがこみ上げてくる。氷上、杉原の両先生は、柔道部の同窓生であり、大学に残られ昨年度退官されたばかりで呼びかけに応じてお見えになり、全員で記念写真とあいなった。当時の柔道場あたりは、篠山産業高校の敷地と、民間工場となり、当時、白堊の西洋テラスは、鉄筋の社宅に建て替えられていた。しかし、大学周囲の”姥桜並木“は今も顕在で、春には毎年のように花を咲かせているとのこと。町に出ると風情はちっとも変わっていない。デカンショ通り・誓願寺前・盃ケ岳……懐かしい名前がつぎつぎと出てくる。一方、たんば田園交響ホール、旧裁判所の博物館、新生・篠山市役所などかつての面影を残しながらも変貌をとげつつある。

王子山にある国民宿舎「さやま荘」17時。遅くなり篠山に到着した”もと農大生“も集まり出した。ふさふさしていた髪の薄くなった者、白くなった者、太った者、学生時代の面影をまったく思い出すことのできない者、などなど…しかし、一言「やー久しぶり」「元気だった？」と声を掛け合ったとたん、もう心は”柔道着をきた大学生だ“宴会のセレモニーがおわるやタイムマシーン、どらえもんの”どこでもドア“に乗って、オジサンたちの『夢と青春』「あの時の技はこうだった」「対外試合インカレ、県内大学柔道大会」「合宿のいろいろ」酒と興がのってからは”おまえにこう投げられた“”あしげりは痛かった“”寝技でこう絞められた“など実演が次から次から出て、まるで小学校の修学旅行だ。本当に話はつきない。諸先輩で今回はじめてお会いした方々もいたが、いずれも、何十年前からの知己のごとく語り合った。現役の第一戦で活躍されていらっしゃる方、第二、第三の職場、晴耕雨読あるいはボランタリー活動に励まれていらっしゃる方……人生のなんたるかと柔道・そして心の青春、『ふたたび会える日を』約束し散会した。残念なことに、昭和44年卒の永松正徳氏（伊藤ハム北海道の工場長）が、9月に急逝されたとの報、本会での元気に飲み、語られたことが記憶にあまりに新しいだけに信ずることができない。ご冥福をお祈りし、報告を終えます。

旧兵庫農科大学の正門前にて

脚光を浴びる「マリンピア神戸」

中村　直彦（神一回）

マリンピア神戸・シーポートレストランツ

古くから神戸は、港を中心に人、物、文化（情報）の交流が盛んに行われ、ハイカラな文化が醸成されてきたが、これも外国の文化に触れる機会が多かったことが理由と思われる。このことは、神戸の街を歩くと、その街並み、人々の装いや会話からも窺い知ることができる。

その「ハイカラ神戸」の街に、また一つ新名所ができた。神戸は、観光客で賑わう多くの観光施設が点在しているが、今日の時代にマッチし、神戸らしさをアピールしているのが、商業・観光の拠点として脚光を浴びている「マリンピア神戸」である。

神戸市西部の垂水漁港内の一角に位置するマリンピア神戸は、瀬戸内海に面し、雄大な明石海峡大橋を背景にして南欧風の建物が建ち、異国情緒を醸し出すお洒落な街並みを形成している。そこは、「神戸のお台場」ともいわれ、若者たちを中心に年間500万人を超える人々で賑わいを見せている。

このマリンピア神戸は、「人と海と魚のふれあいの場」を基本テーマに掲げ、新しい都市型漁業を展開して、市民に新鮮で美味しい魚を提供するとともに、市街地に接した美しいウォーターフロントを形成して、快適な都市環境と都市活力を創出し、さらには海の香り高い憩いと安らぎの場を提供することを目的に建設した。

平成2年に埋立て免許を取り、翌年から埋立て工事にかかったものの平成7年には阪神・淡路大震災が発生し、工事期間は延びたが平成9年に埋立て工事が竣工した。東西600m、南北300m、埋立て面積18・5haの基盤整備に要した総事業費は、190億円である。

埋立て工事をはじめ、神戸市立水産体験学習館、臨海休養広場、環境緑地といった基本施設は、神戸市が建設したが、震災による財政事情の悪化と長引く不況のため、駐車場は市の外郭団体によって、また商業施設は民間活力を導入することにより、全体整備を進めた。

その結果、水産体験学習館、駐車場等が平成10年に、シーポートレストランツ、ファクトリーアウトレッツ・ウェストが11年に、ファクトリーアウトレッツ・イースト、シーフード・マルシェが12年にオープンした。

今後の課題としては、周辺道路の渋滞対策としてのアクセス道路整備のほか、フィッシャリーナ、海洋牧場やまだ残っている未利用地の活用であり、これらの事業を進めることにより、マリンピア神戸の魅力がますます高まっていくものと期待している。

また、21世紀は、食糧問題と環境問題が人類の大きなテーマとなるといわれている。そこで、国民の食糧として重要な水産物を安定的に供給する水産・漁業の重要性はますます高まるものと思われる。神戸市においては、今後とも、このマリンピア神戸を核にして水産・漁業の振興を一層進めていくことにしたいと考えている。

［施設内容］

（1）神戸市の建設施設

	水産体験学習館（さかなの学校）	臨海休養広場（おさかな広場）	環境緑地（緩衝緑地帯）
目　的	・市域漁業の紹介 ・漁業に対する理解の増進	・海の香り高い憩いの場の提供 ・イベント広場	・緩衝地の形成 ・憩いと安らぎの場の提供
内　容	・塩、のり作りほか ・ビデオ・図書ライブラリー	・ステージ ・パーゴラテント	・芝生広場 ・遊歩道 ・日時計
規　模	鉄骨造平屋建 514 ㎡	5,000 ㎡	31,200 ㎡(50×600m
供用開始	平成10年3月20日		
管理・運営	神戸市が建設し、（財）神戸みのりの公社に管理委託		

（2）公社の建設施設

	内　容	備　考
駐車場収容台数	約1,600台（大型車22台を含む） うち約850台は臨時使用	交通渋滞対策でH12.7.1からマリンピアの全未利用地を活用
営業時間	午前6時～23時	マリンピア神戸の開放時間と同
駐車料金	・普通車　200円／時間。 ・大型車2,000円／日 ・一　泊1,000円／日	・土、日、祝日、夏休みを除く日は、600円／日が上限。（普 ・時間外の違約金として
設置・運営	（財）神戸みのりの公社	神戸市から土地を賃借し営業

（3）民間事業者の建設施設（名称：ポルトバザール「PORTO　BAZAR」）

施　設	敷地面積	建築面積	店舗面積	構　造	内　容
ファクトリーアウトレッツ　ウェスト（H.11.10.1）	8,000 ㎡	6,365 ㎡	8,082 ㎡	鉄骨造3階建	ファッション、スポーツ・アウトドアーのウエアー・シューズ・グッズ、服飾・生活雑貨、38店舗
シーポート　レストランツ（H.11.7.30）	3,507 ㎡	2,140 ㎡	2,180 ㎡	鉄骨造3階建	雄大な明石海峡大橋を望む絶好のロケーションと世界の料理が楽しめる。11店舗、1,000席
ファクトリーアウトレッツ　イースト（H.12.6.28）	6,488 ㎡	3,890 ㎡	4,678 ㎡	鉄骨造2階建	キッズファッションマリン・スポーツ・アウトドアーの服飾・生活雑貨、プレジャーボートショールーム、32店舗
船の広場（H.12.6.28）	1,247 ㎡				アスレチックと噴水を配した広場
シーフード　マルシェ（H.12.7.28）	2,165 ㎡	1,440 ㎡	1,359 ㎡	鉄骨造2階建	鮮魚・水産加工品を販売する観光魚市場10店舗、新鮮な食材を活かしたシーフードレストランと回転寿司、2店舗、400席
合　計	21,407 ㎡	14,655 ㎡	17,239 ㎡		

マリンピア神戸・ファクトリーアウトレッツ・イースト

支部会だより

KOBE六篠会

藤本　有里（神二十五回）

KOBE六篠会は、兵庫農科大学、兵庫県立農業短期大学及び神戸大学農学部を卒業し、神戸市に勤務する者を会員として、昭和59年に結成されました。現在会は、会員118名（現職会員87名、OB会員28名、名誉会員3名）を数え、左表の方々によりお世話いただいているところです。

会員の勤務先はというと…小学校や中学校（先生）や、環境局（産業廃棄物や環境保全に関わる仕事）、保健所や区役所保健部（食品・環境衛生に関する仕事）、産業振興局（農・水産・畜産業の農政事務に関する仕事）、建設局（土木、下水道、道路などの土木関係）、フルーツフラワーパークや六甲山牧場、海釣り公園…などなど多岐にわたっており、いろいろな現場、さまざまな仕事にたずさわっています。

会の活動は、年1回の総会・懇親会の開催および名簿の発行であり、総会・懇親会は、農学部長、六篠会会長をはじめ定年退官された大学の先生方にもご出席をいただき、大学の近況等伺うことができる良い機会となっています。

また、私個人的には年1回の懇親会は、大学から少しずつ離れていくなかで、大学を思い出せるひとつの場であり、また市役所という共通の職場で働く先輩の方々と同窓生として新たに知り合える場となっています。

KOBE六篠会第14回総会　平成12年11月15日　於　産業振興センター

役職名	氏　名	卒年・回生	所属(勤務先)
会　長	西尾　司	43年・兵Z16回	環境局 環境審査室
副会長	畑沢　則雄	41年・兵A16回	監査事務局 第3課
副会長	谷口　正夫	43年・兵Z16回	産業振興局 農水産課
副会長	中村　直彦	45年・神Z1回	産業振興局 農水産課
幹　事	木股　昌行	45年・神Z1回	垂水区 保健部 衛生課
〃	菅原　通直	48年・神C4回	須磨区 保健部 衛生課
〃	橋本　宏之	51年・神Z7回	保健福祉局 保健所 衛生監視課
〃	渋谷　一郎	52年・神C8回	市民局 消費生活課 生活情報センター
〃	高谷　信之	52年・神A8回	産業振興局 西農政事務所
〃	森川　功一	55年・神C11回	環境局 環境政策課
〃	藤井　俊宏	58年・神C14回	兵庫県予防医学協会 保健環境センター
〃	鈴木　壽也	59年・神P15回	産業振興局 中央卸売市場東部市場 業務課
〃	松宮　道生	60年・神A16回	建設局 西建設事務所
〃	安藤　伸子	元年・神C20回	環境局 環境審査室
〃	岡野　光世	3年・神A22回	産業振興局 農政計画課
監　事	斎藤　允己	42年・兵A15回	福田中学校
〃	岡　淳治	45年・神T1回	都市計画局 区画管理部 西部都市整備課
〃	千代　栄司	46年・神A2回	こうべ市民福祉振興協会 しあわせの村(事業部)

県六篠会近況報告

松本 幹夫（神三回）

「県六篠会」は兵庫県に勤務する（又は、勤務した）六篠会会員により、昭和56年に結成されました。

現在、会員208名（内現職会員170名）を数えます。会員の所属は、企画管理部7、県民生活部14、産業労働部・農林水産部3、産業労働部2、農林水産部129（内農業技術センター39）、県土整備部4、長期ビジョン部2、教育委員会3、出納事務局2、議会事務局1、県警3と多岐にわたっています。

兵庫農科大学1回生から神戸大学30回生まで47年間、ほぼ毎年4人から5人が採用されています。平成12年度は農学職の新規採用がありませんでしたが、退職者と新規採用者がほぼ均衡しており、現職会員170名を維持しております。

会の活動は年1回の総会兼懇親会と名簿発行のみですが、会員同士は、仕事の中で同窓生としての良き緊張感の下、困難な仕事も円滑に進められているのではないでしょうか。

平成12年3月18日から9月17日まで、「人と自然のコミュニケーション」をテーマに淡路島で開催し、695万人の入場者を迎えた花と緑の国際博覧会「ジャパンフローラ2000」、平成11年に制定された食料・農業・農村基本法を踏まえ、21世紀初頭の兵庫の農林水産業・農産漁村の目指すべき将来像、基本戦略を示す次期農林水産振興計画の策定など重要な施策の要として同窓生が活躍しています。

今年は、10月25日に総会を開催しました。同窓会長をお迎えし、農学部の近況や大学時代の昔話など、賑やかな会となりました。

平成十二年度役員

会　長　常深　邦晃（兵12回）
副会長　大谷　良逸（兵13回）
副会長　荒木　斉（兵13回）
副会長　板井　丈夫（兵16回）

事務局

県農林水産部総合農政課
担当　新岡　史朗（神11回）
電話　078―362―3411

関東支部の近況について

支部長　和泉　孔庸（兵八回）

関東支部は去る七月二十二日に東海大学校友会館にて第三回の支部総会並びに懇親会を開催しました。

当日は約五十名の会員、本部からは王子副会長、大学からは津川、中田並びに畑教授にも出席して戴きました。

総会では支部規約に基づき支部役員の改選を行い、新役員を左記の通り選出して承認されました。

支部長　和泉　孔庸（兵8回）
副支部長　岸谷　靖雄（兵10回）
山本　隆司（兵10回）
本田　勉（兵12回）
多田　泊二（兵13回）
上山　維介（神3回）
谷口　廣昭（神4回）
鮫島　常樹（神6回）
松尾　一穂（神11回）
東野　純明（神13回）
早瀬　基（神19回）
幹事　水田　勲（兵12回）
佐藤　一義（神10回）
菅　哲郎（神15回）
川口　真二（神18回）
監事　河波　朗（神14回）
荒井　良昌（神15回）
村橋　一彦（神16回）

今回、凌霜会東京支部が「東京K・U・C」協議会を企画され、その第一回の会合が去る七月十三日にあり、当支部からは上山、東野両副支部長が六篠会の代表として参加しました。凌霜会東京支部はホームページを持ち神戸大学関連学部の紹介や丸ノ内にあるクラブで開催する各種のイベント等を紹介しておられ六篠会でもこのホームページやクラブを活用して欲しいとの要望がありました。

関東支部としてはこのクラブの活用、ホームページの作成等を上山、松尾両副支部長が中心になって具体化に向けて検討していく所存です。

懇親会では今年傘寿を迎えられた奥谷先生（旧昆虫学教室）の乾杯で始まり、王子副会長からは六篠会の今後の活動について、津川、中田並びに畑教授からは大学の現況について、さらに兵二回の河村氏や会員有志からは大学時代の思い出や近況について、いずれも含蓄のある「講義」を拝聴しながら和やかな雰囲気の中でのひとときを過ごしました。

なお、支部総会の連絡は例年平成九年版の六篠会名簿に基づいて関東地区の会員に案内をしておりますが、今回は転勤、転居等により住所を変更された会員へは連絡が十分に出来なかったと思いここにお詫び申し上げます。

名簿記載の住所を変更されている方は事務局の上山副支部長（電話03―5687―3921 ㈱アグロス内）あるいは支部役員の誰かに連絡して戴きたく宜しくお願い申し上げます。

「神戸大学木曜会（関東支部）」開催のお知らせ

去る七月十三日に神戸大学の全学部の代表が東京凌霜クラブに集まり、「神戸大学学友会東京連絡会」を立ち上げました。交通至便の地（東京丸ノ内）にある東京凌霜クラブを神戸大学の全卒業生が気軽に利用し、今昔を語らい、憩いの場として交流の輪を広げてはどうかと言う提案があり、その趣旨に基づき、各学部が輪番で主宰し「神戸大学木曜会」として定例談話会を催す事になりました。

内容は主宰が講師を招き講演後立食パーティ形式で歓談して頂く会合です。明年四月までのスケジュールと主宰学部は、十月二十六日医学部（講演は癌の話）、十一月三十日工学部、三月二十二日経済学部、四月二十六日教育学部であり、農学部の主宰は明年二月二十二日となっております。六篠会関東支部会では同窓の友人、知人を誘って参加して頂くよう声を掛け合うことにしています。

なお、時間は午後六時半からで参加費用は五千円となっています。

延喜会近況報告

久下　平（兵一回）

本年度延喜会総会を新家六篠会会長、青木生物機能化学科教授並びに会員十五名出席し、さる七月十五日（土）ハーバーランドオーガスタプラザ十七階ハーバースカイに於て開催しました。

総会に先だち、新家先生より「飲酒と健康」と題して、有益な講演をいただいた後、懇親会に入り、会員の現状、情報交換を語り合い親睦を深め有意義に過ごしました。

席上延喜会の支部役員を次の様に留任することを決定し、選任した。

顧問　青木　健次（神大教授）
会長　久下　平（兵1回）
副会長　久保一兵（兵2回）
〃　新藤充宏（兵12回）
〃　石賀　暢一（神1回）
庶務　村上周一郎（神大講師）

今後六篠会の支部として会員相互の連携と親睦を更に深めて行く事を確認し散会した。

◎新家先生の「飲酒と健康」の講演の主な要旨。

○適量飲酒とJカーブ（米国保険科学協議会のレポートより）

○がん抑制の効果（国立がんセンターの調査）

他色々面白い有益な講演でした。

六篠会からのお知らせ

六篠会活動の活性化のために ―支部結成・活動を支援します―

中村　直彦

今の厳しい社会経済情勢をどう乗り切っていくかということは、官民を問わず大きな課題です。そこで、仕事のことで連携をとったり協力しあったり、心の支えになるのが同窓生です。神戸大学農学部を卒業したということで壁がなくなり、いろいろな面で話しやすくなります。

そのため六篠会では、大学を核とした同窓会活動の活性化について種々検討を行い、各種事業に取組んでいます。そこで六篠会活動の活性化、事業の円滑化、内容の透明化を図るため、各種の規定を策定しているところですが、その中に「六篠会の支部設置及び運営に関する規定」があります。

この規定は、六篠会活動を広く会員に広げ、会員が参加し、同窓会活動に協力していただくために、同一又は同種の企業等の会員で作る「職域支部」や同一地域の会員で作る「地域支部」の設立と活動を支援しようとするものです。支部設立の基準は、その職域又は地域のすべての会員を対象とした組織で30人以上の構成メンバーで会則を作り、年1回以上の会を開催することが条件となっています。

このような支部の設立又は運営にあたり、本部からは必要な情報提供を行うとともに、年間10万円を限度として助成金を交付します。

すでに設立をみている支部は、神戸市役所の「KOBE六篠会」、兵庫県庁の「県六篠会」、醸造学教室の卒業で酒造会社に勤務する「延喜会」、関東地域の一都六県に在住、在勤する「関東支部」があります。現在各地域で、支部設立に向けての活動を続けていただいておりますが、さらに多くの支部が発足することを願っています。

農学部からの景色

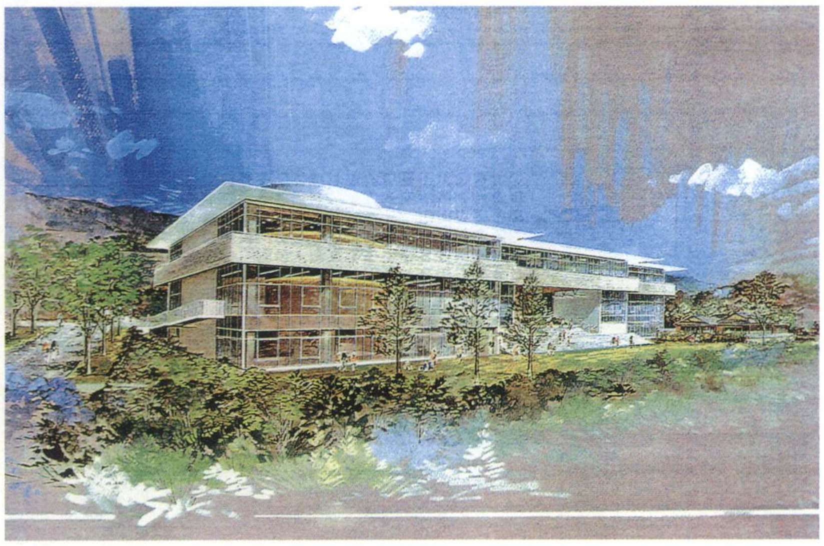
学友会だより 神大会館の建設

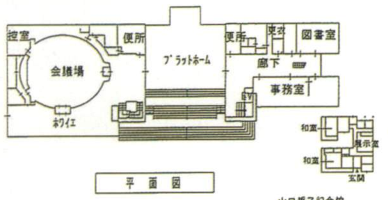
学友会担当　西川　欣一

「六篠会報」第十四号でお知らせしました、神大会館の建設がいよいよ最終段階を迎え、二〇〇一年一月に竣工式が行われる予定となりました。

この建設は、神戸大学創立一〇〇周年記念事業の一つといえるもので、三つの新施設、すなわち、神大会館・留学生センター・山口誓子記念館とが、三位一体となったKRYセンターとして建設中です。

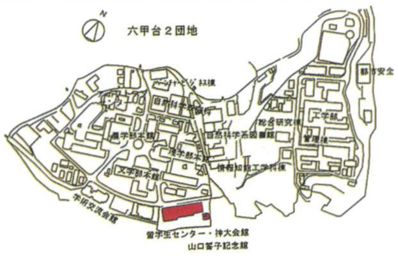
建設場所ならびに構造は図の如くで、神戸大学キャンパスの最南端（農学部の東方）にある海抜一〇〇メートルの丘の上にあります。この建造物には、三つの空間に特徴があります。その第一は二十一メートルの大階段を眼下に収める玄関ホールであって、大阪から神戸への郡市の風景が眼下にひろがり、関西国際空港が遠望できる広大な空間です。第二は天井の高さ十二メートルの楕円形の国際会議場で、ここは会議を主目的とするが、コンサート等も開くこともできる構造で、音楽的に壁面を換えることで、残響時間を調整する仕組みとなっています。第三は三階外部の四方に突出する奥行一・八メートルの大バルコニーで、室内と屋外との緩衝空間にあたり、建物内部の閉塞感をなくす働きをしていることです。





平面図

山口誓子記念館



次に、三施設の概要を示せば、以下の如くです。

〔神大会館〕

国際会議・国際シンポジウム・各種学会等、広く国内外の研究機関との学術交流の進展に寄与することを目指し、神大九〇周年事業会より寄附を受けて建設するものです。

〔留学生センター〕

教育指導の充実発展と、留学生交流の推進に寄与し、他文化共生社会を目指す国際交流の原点となる施設を目指すものです。

〔山口誓子記念館〕

神大会館前庭の東端に、昭和の有名な俳人であった故山口誓子の旧邸を復元し、俳句、俳文学を中心とした国文学に関する研究集会や研修を行う建物で、故誓子の遺言により遺産の寄附を受け、その意向に基づき、誓子学術振興金によって建造されるものです。

神大クラブ（KUC）のご案内

KUC担当　中村　直彦

KUC企画・海外ツアー　敦煌鳴沙山観光

神大クラブ（KUC）とは、神戸大学全学部の卒業生のサロンです。学部や世代を越えて、同窓生のふれあいの場（相互交流・親睦）として利用されています。同窓生の個性をつなぎ、自分自身の知性を高める絶好の場となります。KUCの会場は、神戸ハーバーランドにあるオーガスタプラザ17階、レストラン「ザ・ハーバースカイ」。ここへ行けば、同窓生の誰かに会えるということになり、交流の輪が広がります。

また、KUCでは、定期的に講演会や音楽会・演芸会のほかパーティーなどを企画し、会員に案内しています。平成12年度には、医学部の武政助教授を招き「高齢者在宅介護の実際とコツ」の講演会（6／8）、「ビールパーティーとハワイアン」（9／7）のほか、11月には3日間、2000円で飲み放題・食べ放題の「感謝デー」を開催しました。さらに、好評のため今年で3回目を迎えた海外ツアー「西安・敦煌の旅」は、世界文化遺産となっている、西安の兵馬俑や敦煌・莫高窟の仏像や壁画等の見学、また食事は王宮式フランス料理、本場の中華料理のほか餃子のフルコースを参加者は満喫しました。

KUC企画・海外ツアー　敦煌莫高窟観光

☆KUCの入会は

・資格は神戸大学の卒業生及び教職員。入会金は1万円、年会費が6千円

☆会員の特典は

・各種の催しの案内、指定レストラン・旅行代金・ゴルフ練習料金の割引

・神戸おくさま新聞の「結婚相談室」が特別料金で利用できます。

（文学部の卒業生が開設し、KUCが推薦していますので安心してご利用できます。お問合わせは 078（794）3041）

☆入会・お問合わせは

・神大クラブ事務局（ザ・ハーバースカイ内）

078（360）8451

総会のご案内

平成13年には4年に1度の同窓会総会が開かれます。詳しい日時は未定ですが、5月中に開かれる予定となっています。日時や場所などの詳細は、会員の皆様方のお手元に来春郵送でお送りする予定です。六篠会の活動内容を良く知る機会でもありますので、お誘いあわせの上、総会に出席してみては？皆様方の多数の参加をお待ちしております。

また、この機会に日時を会わせ、各学科や講座、同学年などの同窓会を開いてはいかがでしょうか？懐かしい出会い、新旧の交流を再び暖めるチャンスです！六篠会では会員情報の新しいデータベース化にともない、会員の皆様方のご要望で学科や研究室、学年単位での情報を提供するお手伝いが可能です。詳しくは六篠会まで。

平成十一年度 庶務報告

平成12年度の代議員総会の決定に基づき新役員体制での活動をスタートさせました。

役員のメンバーについては新たなメンバーも含め運営してゆくことが承認されました。副会長に和久　克明氏の代わりに宮崎　秀紀氏が就任され、武　正興氏の代わりに幹事に松本　幹夫氏が就任されました。また、本会の活動をよりスムーズにし、かつ、大学外との幅広い交流を期して、現在の幹事の中から特に幹事長を選ぶことが決められ、その重職に中村　直彦氏が就任されました。また、平成9年度の総会で本会の運営に関する諸規定が成立したお陰で運営指針が確立し、10—11年度の運営が大変スムーズになりましたが、現状に即して一部改良されました。平成11年度の一般事業として会員増強、会報の発行、農学部・農場活動援助、六篠会支部活動の援助、学友会・KUC活動援助、学生の六甲祭援助、マラソン援助、学生図書購入援助、退官教授記念品贈呈、卒業証書筒贈呈、卒業祝賀会援助などを行いました。また、学術振興事業としては例年どおり会員の海外学術活動の援助（3件、学生会員を含む）と農学部の各学科主催の学術講演会（16件）への援助を行いました。

平成12年度の活動も例年同様の活動を維持してゆくことが承認され、活動を開始しております。懸案の同窓会会員の福利・厚生事業の検討に関しては、大変難しい情勢でもありますが、今後も継続審議し、会員の交流の促進をめざして、可能性を求めています。

慶弔記録

以下の方々がご逝去なされました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

西羅　寛（旧教官）
紅林　賢臣（修20、博後H8回）
古川　淳（兵C2回）
清水　俊秀（旧教官）
岡本　隆介（神A20回）
前川　尚夫（兵A2回）
桃井　節也（旧教官）
上田　貞夫（旧教官）
魚住　廣道（鶴1回）
小林　勝（鶴1回）
寺田　哲也（鶴1回）
三好　旭（鶴2回）
岡村　和香（神A18回）

退官並びに着任教官

退官、および神戸大学から移動された先生方をお知らせします。

退官された教官

土田　廣信（園芸資源学）
幡山　文一（生物機能分子化学）
内田　幸夫（食料環境経済学）
杉原　一三（動物機能調節学）
加野　浩一郎（動物機能調節学）

の各氏です。

転出された教官

中嶋　洋（京都大学へ）

着任された教官

伊藤　博通（生物生産工学）
LE DINA DON（植物病理学）
庄條　昌之（自然・生命科学・応用生物学）

の3氏です。

神戸大学開学百周年記念事業に関連して想うこと

神戸大学学友会長　新野幸次郎

いくつかの独立の歴史をもつ学校が合併して出来た大学の開学年次をいつに決定するかは実に難しいことである。しかし、神戸大学では、かつて部局長会議でそのことについて真剣に討議した。結果、大学を構成する各学部のうち高等教育機関として最初に開学された神戸高等商業学校の創設が決定した明治35年を開学年次にすることとし、評議会の議を経て、正式に確定された。

その前後、わが国経済は、既にいわゆるバブルの絶頂から後退しつつあった。この状態が続くと、神戸大学が開学百周年を迎える頃でも、予想される不況からの立ち上がりは困難ではないかと考えられた。そこで、事実上百周年を頭におき乍ら、九十周年を記念して各学部卒業生やその関係企業などに募金をすることになった。募金活動はバブル崩壊がはじまった中で進行したが、皆さんの大変なご厚配とご尽力で何とか、総額は12億円強となった。その募金のお蔭で、この2001年1月に竣工式を迎える神戸大学会館などが建設されることになったほか、他にもいくつかの大学の運営についての支援が出来るようになった。

しかし、私たちが開学百周年を迎えようとしている2002年か、その1、2年後には、大学は国立大学開設以来最大の転機を迎えようとしている。いわゆる独立行政法人化の問題はその一つである。不幸にしてその内容はまだ明白でない。しかし、例えば、予算総額の決定メカニズムがどうなるかによっては、各大学は研究費を外部調達する能力のいかんによって、大きな影響を受けることになることも考えられる。この危機はもちろん在職しておられる先生方のご活躍、研究成果の飛躍的向上によって克服されるのが根本である。アメリカの私立大学は、周知のように大学経費の圧倒的比率を授業料に頼っているわが国の私立大学とは違って、教員が外部から獲得する研究費のうちから支払うオーバーヘッド・コストとしての拠出金と卒業生その他からの基金とを両輪として運営されている。もし、独立行政法人化がこのようなアメリカ的な方向を目指していることになれば、各学部同窓会は、母校支援のために従来にもましてそのあり方と活動方式を強化しなければならなくなる。

最近出版された本の中で、ミシガン大学の名誉学長は、同大学の年間予算が30億ドルであるが、大学はそれと同額の基金を別にもっていて運営していると述べている。開学百周年を迎えようとしているわが神戸大学が、21世紀の日本を代表する大学の一つに発展しようとすると、独立行政法人化の波の中、神戸大学の各学部同窓会は、あらためてその存在意義を問い直し、大学とのあるべき関係を模索することを求められているといってよい。

六篠会や大学への要望をお寄せください。

六篠会の活動としては、会報の発行（年1回）、名簿の作成（4年ごと）のほか、農学部の教育・研究活動に対する支援、若手教官・研究者の海外学術活動に対する支援をするとともに、在校生に対する支援としては、学生図書購入援助、六甲祭やマラソン大会の援助、卒業祝賀会の援助などや慶弔事業、その他学友会活動、KUC活動等を行っています。

限られた予算枠ですので、事業内容にも限度がありますが、同窓生の交流と親睦、農学部の発展と学生生活への支援が図られるように、知恵をしぼり工夫しながら事業を実施しています。

こんなことを考えて欲しい！おこなって欲しい！といった要望があれば、建設的なご意見をドシドシお寄せください。開かれた同窓会、活力ある同窓会を目指しています。他に近況や楽しい話題なども連絡ください。

また、大学に対する要望等についてもありましたら、ご相談ください。

その他、住所や連絡先の異動は必ず連絡をください。連絡不明となると以降の六篠会や大学からの連絡が不可能になります。なお、ご連絡の際には、卒業年次、所属の学科名をお忘れなく！

会員の皆様からの本会への御連絡を主としてFAXで受付けております。また、コンピューターの導入に伴い、新たにe-mailでの受付も行っております。住所や連絡先の変更、また本会に対する御要望、御意見など御待ちしております。なお、御連絡の際には、所属学科と卒業年次を併せてお伝え頂くようお願い申し上げます。

FAX: 078-881-2752
E-mail: rikusou@ans.kobe-u.ac.jp

六篠会　平成12年度一般会計予算案

収入の部（円）

項　目	11年度予算（円）	12年度案（円）	増減（－:減）	備考
入会金	5,000,000	5,000,000	0	
50周年記念事業からの繰入	1,200,000	0	-1,200,000	
雑収入	4,000	4,000	0	
前年度からの繰越金	3,097,868	4,043,164	945,296	
合計	9,301,868	9,047,164	-254,704	

支出の部（円）

項　目	11年度予算（円）	12年度案（円）	増減（－:減）	備考
農学部･農場援助費	550,000	550,000	0	
一般事業費				
会報発行費	2,000,000	2,000,000	0	
各種活動援助費	500,000	500,000	0	
学生図書購入費	250,000	250,000	0	
卒業記念祝賀	300,000	350,000	50,000	
学術振興基金への繰入	0	2,000,000	2,000,000	
一般事務費	1,500,000	1,000,000	-500,000	
会議費	300,000	300,000	0	
旅費	100,000	100,000	0	
慶弔費	300,000	300,000	0	
交際費	130,000	230,000	100,000	
褒賞費	100,000	100,000	0	
役員活動費	540,000	630,000	90,000	
神戸大学学友会費	110,000	110,000	0	
予備費	2,621,868	627,164	-1,994,704	
支出合計	9,301,868	9,047,164	-254,704	

平成12年度　六篠会学術振興事業予算案

収入の部（円）

項　目	11年度予算（円）	12年度案（円）	増減（－:減）	備考
前年度からの繰越金	32,230,882	34,132,899	1,902,017	
50周年記念事業からの繰入	2,500,000	0	-2,500,000	
一般会計からの繰入	0	2,000,000	2,000,000	
雑収入	90,000	90,000	0	
合　計	34,820,882	36,222,899	1,402,017	

支出の部（円）

項　目	11年度予算（円）	12年度案（円）	増減（－:減）	備考
海外学術活動援助費	400,000	400,000	0	
学術活動援助	400,000	400,000	0	
予備費	500,000	500,000	0	
支出計	1,300,000	1,300,000	0	
保留金	33,520,882	34,922,899	1,402,017	
合　計	34,820,882	36,222,899	1,402,017	

六篠会　平成11年度一般会計決算報告書

収入	9,216,092円
支出	5,172,928円
残高	4,043,164円

収入の部（円）

項　目	予算額（円）	決算額（円）	増減（－:減）	備考
入会金	5,000,000	4,890,000	-110,000	3万円×163名
50周年記念事業からの繰り入れ	1,200,000	1,200,000	0	
雑収入	4,000	28,224	24,224	利子、名簿売り上げなど
前年度からの繰越金	3,097,868	3,097,868	0	
合　計	9,301,868	9,216,092	-85,776	

支出の部（円）

項　目	予算額（円）	決算額（円）	増減（－:減）	備考
農学部農場援助費	550,000	550,000	0	環境美化
一般事業費				
会報発行費	2,000,000	1,923,945	-76,055	
各種活動援助費	500,000	410,000	-90,000	支部活動助成など
学生図書購入費	250,000	250,000	0	
卒業記念祝賀	300,000	345,759	45,759	
一般事務費	1,500,000	450,415	-1,049,585	
会議費	300,000	158,020	-141,980	
旅費	100,000	56,280	-43,720	
慶弔費	300,000	160,444	-139,556	
交際費	130,000	105,000	-25,000	KUC活動など
褒賞費	100,000	0	-100,000	
役員活動費	540,000	550,000	10,000	
神戸大学学友会費	110,000	110,000	0	
予備費	2,621,868	103,065	-2,518,803	
支出合計	9,301,868	5,172,928	-4,128,940	
次年度繰越金	0	4,043,164	4,043,164	
合　計	9,301,868	9,216,092	-85,776	

六篠会　平成11年度学術振興基金決算報告書

収　入	34,692,899円
支　出	560,000円
差引残高	34,132,899円

収入の部（円）

項　目	予算額（円）	決算額（円）	増減（－:減）	備考
前年度からの繰越金	32,230,882	32,230,882	0	
50周年記念事業からの繰入	2,500,000	2,404,389	-95,611	
雑収入	90,000	57,628	-32,372	
合　計	34,820,882	34,692,899	-127,983	

支出の部（円）

項　目	予算額（円）	決算額（円）	増減（－:減）	備考
海外学術活動援助費	400,000	240,000	-160,000	
学術活動援助	400,000	320,000	-80,000	
予備費	500,000	0	-500,000	
支出計	1,300,000	560,000	-740,000	
保留金	33,520,882	34,132,899	612,017	
合　計	34,820,882	34,692,899	-127,983	

住所等変更のあった人

平成13年度版六篠会名簿発刊決定

●名簿1冊3,500円（送料込）

■平成13年11月発行予定です。
■近々にも往復葉書により調査開始します。
■葉書未返信の方には、電話で確認します。

お問い合わせ先　0120-622-353

(株)リオスコーポレーション 六篠会名簿係

（六篠会では、名簿作成業務を当企業に委託しています。）

編集後記

六篠会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。本年も六篠会報をお届けする時期となりました。この会報を作成する時期がやってきますと昨年度の作成を思い出し、なんと一年が早いかということを痛感しております。

平成12年は西暦2000年であり、新しい千年紀（ミレニアム）としてコンピュータ1問題など騒がれたことは記憶に新しいと思います。この会報が皆様のお手元に届くころには21世紀も迫っている、あるいは始まった頃だろうと思います。我々神戸大学も新しい未来に向かって試行錯誤し、また農学部も新しく生まれ変わらなければならない、そんな気がする今日この頃です。

会報と名簿も今期より印刷会社を変更しました。これは今後の名簿のデータ処理やサービスを考えて行った次第です。今回の会報がその第1弾となるわけですが、なにかと混乱することもあるかとは思いますがご了承ください。また、いろいろお気づきの点もあるかと思いますので、皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。同窓会事務局への連絡はFAXおよびeメールにより受付可能となり好評を頂いております。今後とも数多くのご意見やご連絡をお待ち申し上げております。また、住所変更等も受け付けておりますので、その際にはご連絡ください。

それでは最後に、21世紀の始まりが同窓会員方々にとってすばらしい幕開けになることを祈っております。